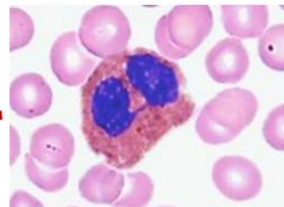
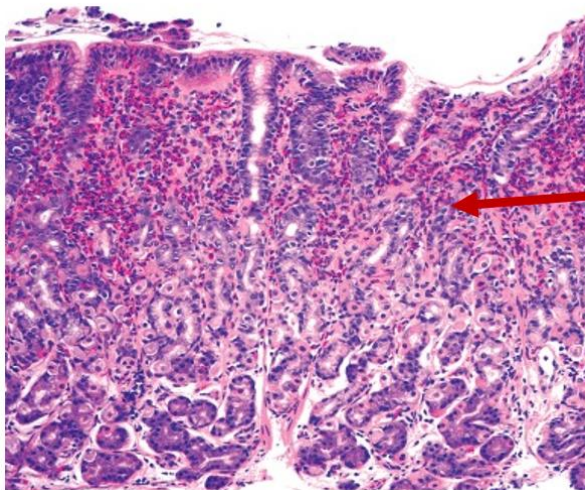


好酸球性胃腸炎とは

● 好酸球性胃腸炎とは

好酸球性胃腸炎は胃／腸に好酸球が浸潤して慢性炎症を引き起こし、これが原因となって胃腸の正常な機能が障害される疾患です。



好酸球

● 好酸球性胃腸炎の症状

好酸球性胃腸炎では、腹痛、下痢が主な症状です。両疾患ともに喘息などのアレルギー疾患を合併する頻度が高いことがわかっています。



好酸球性胃腸炎では、炎症が漿膜に及ぶと腹水が生じることがあります（好酸球性腹水）。また小腸病変が強いと栄養物の吸収障害のために栄養不良になったり、線維性狭窄のためにイレウスとなることもあります。

● 好酸球性胃腸炎の検査と診断

血液検査では、好酸球の増加、IgEの高値を認めます。

CTスキャンでは胃・腸の壁の肥厚、リンパ節の腫大、腹水、内視鏡では、胃・腸に浮腫、発赤、びらんを認めます。



● 好酸球性胃腸炎の治療

好酸球性胃腸炎では、ステロイドホルモンや免疫抑制薬を用いた治療が行われます。

